

編集：日本フットケア学会

フットケア—基礎的知識から専門的技術まで

書評者：松尾 汎(松尾循環器科クリニック院長)

欧米では靴を常用する環境のためか、足への関心が高い。靴を履き続けることによる功罪はあるが、その歴史は古く、生活のなかからその知識や経験が活かされていると聞く。

わが国はどうであろうか？履き物の習慣や生活習慣の違いからはもちろん、わが国では診療の面でも、より生命に関連する領域(心臓、脳など)に多くの関心が割かれ、足にはあまり関心がもたれなかった。

しかし、最近になって動脈の病氣(閉塞性動脈硬化症など)、神経(脳血管障害、糖尿病性神経症など)、リンパ管(リンパ浮腫)および静脈(静脈瘤、静脈血栓症など)への関心が高まってきている。その他の領域では、皮膚科(白癬、皮膚炎、爪など)、整形外科(関節症、骨折、捻挫、スポーツ関連など)および形成外科領域にも及び、関連施設では病院はもちろん、高齢者施設や在宅においてもその必要性が指摘され始めている。

本書では、フットケアの入門から、評価法、検査法、ケアに必要な技術、社会面でのサポートな

ど、興味はあるがどこから手をつけてよいかわからないという方から、これから始めようとしている方、すでに始めているがどうしたらよいかと悩んでおられる方々にまで、幅広く対応できる内容構成になっている。

しかも、その内容もさわり程度の浅薄なものではなく、専門的な知識や工夫が提示されており、明日からでもすぐに使えるような内容になっている。この領域では実際に利用できる具体的な内容こそが求められており、単なる知識のみでは役立たない応用問題に、本書では見事に答えられている。

さらに感心することは、チーム医療の重要性を具体的に強調していることである。看護師、医師(内科、外科、皮膚科、形成外科、整形外科など)、理学療法士、薬剤師、栄養士などに加えて、介護職、義肢・装具士、靴専門家、さらにはソーシャルワーカーやメンタルケアの専門家なども、おのの役割を担っていると思われるが、その役割別に具体的な提示がなされ、チーム内での連携の重要性がよく説明されている。その役

割の詳細は各専門書に譲らねばならないが、まずチームの連携の重要性を知っていただくには格好の入門書といえよう。

フットケアというと、「足(脚)のことだけ」と思いがちであるが、足(脚)は身体の一部であり、「身体のスグナルとしての足」との認識も必要である。足の障害は、血流障害、栄養障害、神経障害、感染症……多くの原因によって生じるが、その原因を生じる病態には、糖尿病、高脂血症、運動不足、動脈硬化、神経疾患、静脈血栓、癌の手術後等々、全身に障害をきたしうる全身疾患としても注意が必要なのである。

本書に啓発され、フットケアの必要性が広く認識されることにより、これからのフットケアを担う多くのメディカル、コメディカルの方々が生まれ出づることを期待している。

● B5 頁 224 2006 年
定価 3,360 円
(本体 3,200 円+税 5%)
[ISBN 978-4-260-00231-8]
医学書院刊